

診察室こぼれ話

日本国内で、昨年の夏以降じわじわと風疹の感染者が増えています。妊娠初期の妊婦さんが風疹ウイルスに感染すると、風疹ウイルスは血液を介して赤ちゃんにも感染することが今、重大な問題となっています。

風疹ウイルスが妊婦さんに感染した場合、およそ 2~3 週間の潜伏期間を経て症状が出現します。妊婦さんにみられる可能性のある症状は、倦怠感や微熱、首のリンパ節の腫れ（特に耳の後ろや後頭部の腫れ）、発疹、関節症状などです。母体における風疹は、重篤にならずに治癒することがほとんどです。

しかし、胎児に対して影響が生じることがあり、子宮内での胎児死亡に加え先天性風疹症候群として種々の奇形を生じることがあります。具体的に、頻度が高い合併症には、下記のようなものがあります。

- 1) 子宮内発育遅延：週数に比較して胎児の大きさが小さい
- 2) 小頭症：知能や発達に影響を及ぼす
- 3) 眼症状：白内障、網膜症など
- 4) 難聴
- 5) 心疾患：心不全症状を引き起こすことがある

その他、血小板減少による出血傾向や、貧血、肺炎、低ガンマグロブリン血症（免疫不全のひとつ）などを併発することもあります。先天性風疹症候群に伴う症状は出生後すぐに認めるものも

あれば、成長過程を経るにつれて明らかになるものもあります。これには、風疹感染者が妊婦の周辺にいることも大きな原因です。

厚生労働省は 2018 年 12 月 11 日、風疹の予防接種を公的に受ける機会がなかった 39 歳~56 歳の男性について、予防接種法に基づく定期接種の対象にすると発表しました。風疹が成人男性を中心に流行していることを受けた措置です。風疹の予防接種は女性への接種を優先していた時期があり、30 代から 50 代の男性で接種していないか、接種回数が十分でないために、抗体ができていないことが原因とされます。

2019 年 1 月、抗体検査とワクチン接種の費用を原則無料になり、22 年 3 月まで約 3 年間、実施する予定です。関連費用は 18 年度第 2 次補正予算案に計上され、2 月 7 日に参議院で可決されました。厚労省によると、接種対象は、1962 年 4 月 2 日~79 年 4 月 1 日生まれの男性約 1610 万人。実際に接種が必要なのは最大 300 万人程度とみられています。厚労省は今回の措置により、東京五輪・パラリンピックが開かれる 20 年 7 月までに、現在 39~6 歳の男性の抗体保有率を 85%以上、21 年度末までに 90%以上に高めたい考えです。

（厚労省、Medical Note のホームページから参照）



あれこれ情報版



4月より前院長の診察日が変更になります。

水曜日午後 現院長→前院長(小児科の診察はありません)

診察時間は17時から19時

木曜日午後 前院長→現院長(小児科の診察あります)

診察時間は16時半から19時



予防接種をご希望の方は薬剤確保のため、事前にご予約をお願いいたします。お電話でも承ります。



ゴールデンウィークのお休みは

4月28日(日)から5月5日(日)です。

5月6日(月・振替休日)は診療いたします。



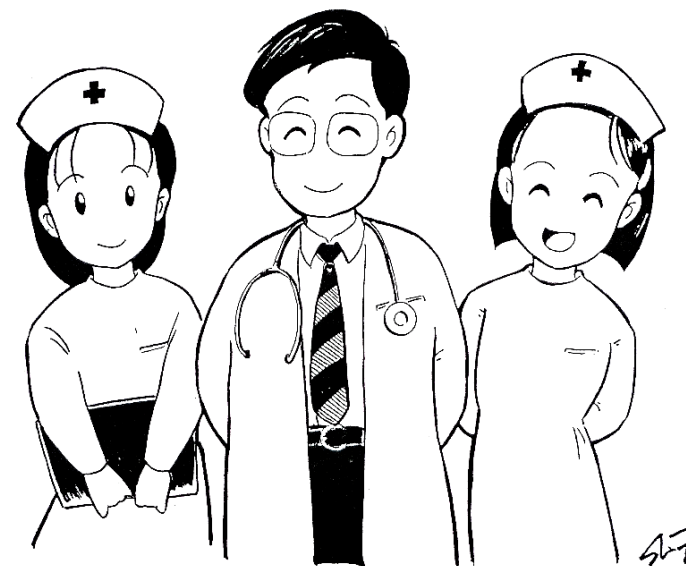
今冬のインフルエンザの流行は多いなと感じた昨年よりも多かったように思います。流行期は昨年に比べて短かったです。今シーズンから新しいインフルエンザの内服薬が使えるようになり、1回服用すれば効果があるものでした。



65歳以上の神戸市民は認知機能検診を受けることができるようになりました。受診券は電話で申し込むことができます。神戸市総合コールセンター(078-333-3330)

すこやか通信

'19 3-4月号 Vol.129



児島医院

内科・循環器内科・小児科・皮膚科

神戸市東灘区深江北町 2-8-26

☎078-431-0696